

平成 29 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



小 阪 憲 司（こさか けんじ）

1939 年 11 月 8 日生まれ

【授賞理由】

誰からも親しまれる良き臨床医としての立場を一貫する傍ら貴殿が神経病理学者として長年地道な研究活動が続けられレビー小体型認知症の発見という世界初の偉業として結実されました。信念で常識を覆し世に知らしめた新たな知見が認知症の人や福祉・医療従事者にもたらした利益は計り知れません。

【略歴】

1977～ 1978 年	ドイツ Max-Planck 精神医学研究所客員研究員
1980 年	レビー小体病という名称を提唱
1984 年	びまん性レビー小体病を提唱
1991 年	横浜市立大学医学部精神医学教室教授に就任
2003 年	横浜市立大学名誉教授、福祉村病院院長および長寿医学研究所顧問に就任
2005 年	聖マリアンナ医学研究所所長に就任
2007 年	横浜ほうゆう病院 院長に就任
2010 年	メディカルケアコートクリニック 院長に就任
2014 年	医療法人社団ヒルデモアクリニック医庵センター南

【褒賞】

- ・レビー小体型認知症の業績により「朝日賞」受賞（2013 年）
- ・International DLB Conference にて今までの業績に対する「感謝状」受賞（2014 年）

【業績等】

認知症治療には認知症の正しい診断と適切な対応が欠かせないという思いから、臨床・研究の第一線で活躍。アルツハイマー型認知症の根本治療法がない現状で、認知症の進行を抑制するための治療の重要性、早期発見と早期治療の重要性を長年訴え続け、また日本老年精神医学会理事長として後継者の育成にあたった。また、レビー小体型認知症を世界で初めて提唱。A-シヌクレインが神経細胞内に蓄積され引き起こされることを明確にし、その臨床症状を整理し、診断基準の基本をつくった。また、医療法人社団ヒルデモアクリニック医庵センター南を中心に、患者ならびにその家族支援を行っているだけでなく、「レビー小体型認知症研究会」の創設者として、後継者の育成、若手研究者の指導、認知症医療の普及に努めている。